

令和5年産

大崎稲作情報 第6号

令和5年7月12日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今後の管理のポイント

- ✓ 稲の生育量を判断して追肥を行いましょ
- ✓ 間断かん水を行いましょ
- ✓ いもち病や斑点米カメムシ類防除に努めましょ

1. 気象経過

6月第2半旬以降、高温傾向が続いています。7月第1、2半旬は高温多照で、降水量は少なめとなりました。

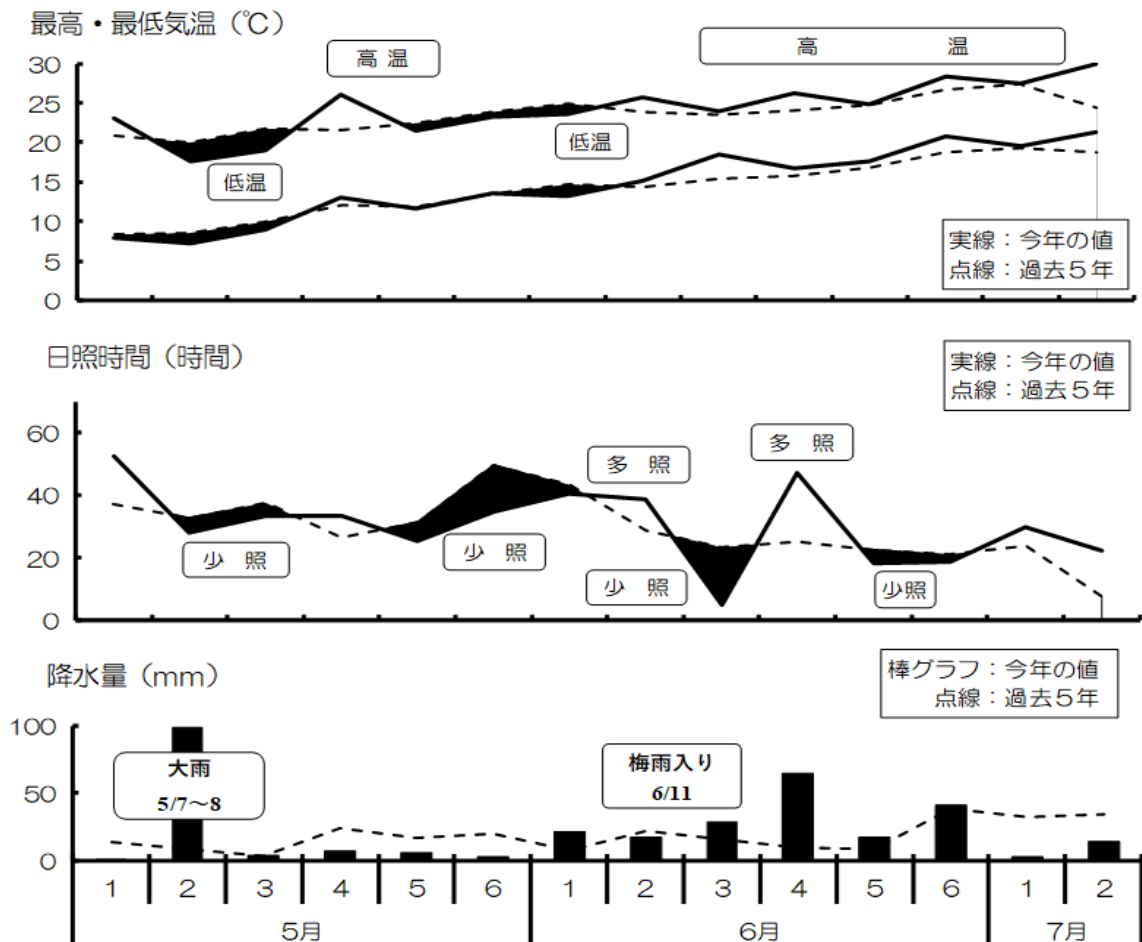


図1 5～7月の気象 (古川アメダス)

2. 生育概況（7月10日現在）

6月第2半旬以降の高温により、生育の回復傾向は続いており、草丈はやや長め、莖数は平年値をやや下回るものの、ほとんどのほ場で目標莖数に達しています。葉数は平年を上回るほ場が増加し、5月上旬移植の中生品種のほ場では幼穂形成期に達しました。葉色はほ場により差がありますが、前回調査より下がったほ場が多くなりました。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植・播種月日	草丈(cm) (平年比)	莖数(本/m) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	備考 幼穂形成始期
ひとめぼれ	大崎市三本木	5月5日 (+1)	72.8 (109%)	528.1 (94%)	11.5 (+0.8)	42.1 (+0.5)	9.4 (+6.1)	7月3日
ひとめぼれ	加美町小野田	5月17日 (+1)	64.1 (104%)	469.3 (84%)	11.3 (+0.7)	38.5 (-4.5)	1.0 (-0.4)	7月10日
ササニシキ	大崎市古川	5月5日 (-4)	64.3 (101%)	455.9 (82%)	10.8 (-0.2)	41.6 (+0.4)	2.9 (+2.1)	7月7日
つや姫	色麻町四竈	5月4日 (0)	64.5 (86%)	570.4 (103%)	11.1 (-0.6)	40.9 (+0.3)		前年比・差
だて正夢	大崎市三本木	5月12日 (-3)	72.3 (101%)	406.6 (109%)	10.8 (0.0)	39.3 (+1.5)	2.4 (+0.3)	7月8日
金のいぶき	大崎市三本木	5月11日 (-3)	71.1 (102%)	551.3 (121%)	11.3 (+0.3)	37.9 (+1.3)	0.3 (-0.4)	前年比・差
ゆみあすさ	加美町平柳	5月21日 (-)	69.3 (-)	386.0 (-)	10.0 (-)	37.7 (-)		新規
ゆきむすび	大崎市鳴子温泉	5月23日 (0)	50.5 (95%)	302.3 (76%)	9.8 (+0.3)	40.3 (-2.2)		前年比・差
みやこがねもち	大崎市岩出山	5月17日 (0)	63.3 (110%)	484.2 (89%)	10.9 (0.0)	34.8 (-1.8)		
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月3日 (-2)	59.8 (112%)	622 (111%)	8.2 (-1.2)	40.3 (+0.1)		
平均 (平年値のあるほ場のみ)		5月11日 (-1)	67.4 (105%)	469 (92%)	11.1 (+0.3)	39.3 (-0.8)		

※平年比・差は前5か年（平成30年～令和4年）の平均値との比較

3. 出穂予想

今後の天候が平年並みであると仮定すると、中生品種の**出穂期は7月28日頃**の見込みです。

今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することがありますので、ほ場の幼穂長を確認し、随時生育ステージを把握することに努めましょう。

表2 生育ステージの予測

田植時期	田植始期	田植盛期	田植終期	7/12現在,7/12以降はアメダス平年値で予測。今後、高温で推移する場合は、予測よりも早まる場合がある。
幼穂形成始期	6月30日	7月4日	7月11日	
減数分裂期	7月9日	7月13日	7月20日	
出穂期	始期	最盛期	終期	
	7月24日	7月28日	8月4日	
平年（前5か年）との差	5日早い	4日早い	3日早い	

※対象品種は「ひとめぼれ」「ササニシキ」

4. 今後の管理

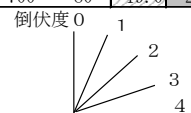
1) 追肥 **追肥は生育量を判断して施用**

生育量が不足している（葉色が薄い、茎数不足等）場合には、追肥が必要です。過剰な追肥は倒伏や病害虫の誘発へとつながります。追肥をする際は、生育量（葉色の濃さ、倒伏診断指標等）を判断して行いましょう。（追肥の効果や目安については稲作情報第5号を参照してください。）

表3 「ひとめぼれ」「ササニシキ」の倒伏診断指標

幼穂形成期(草丈×m ² 茎数×葉色;10 ⁵)							減数分裂期(草丈×m ² 茎数×葉色;10 ⁵)								
茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉緑素計値 (SPAD502型)					茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉緑素計値 (SPAD502型)						
		38	40	42	44	46	48			34	36	38	40	42	44
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4	550	60	11.2	11.9	12.5	13.2	13.9	14.5
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8	550	65	12.2	12.9	13.6	14.3	15.0	15.7
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3	550	70	13.1	13.9	14.6	15.4	16.2	16.9
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7	550	75	14.0	14.9	15.7	16.5	17.3	18.2
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	550	80	15.0	15.8	16.7	17.6	18.5	19.4
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	550	85	15.9	16.8	17.8	18.7	19.6	20.6
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	550	90	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8	21.8
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8	600	60	12.2	13.0	13.7	14.4	15.1	15.8
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5	600	65	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	600	70	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8	600	75	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.8
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5	600	80	16.3	17.3	18.2	19.2	20.2	21.1
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2	600	85	17.3	18.4	19.4	20.4	21.4	22.4
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	600	90	18.4	19.4	20.5	21.6	22.7	23.8
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2	650	60	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1	650	65	14.4	15.2	16.1	16.9	17.7	18.6
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	650	70	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0	650	75	16.6	17.6	18.5	19.5	20.5	21.5
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	650	80	17.7	18.7	19.8	20.8	21.8	22.9
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8	650	85	18.8	19.9	21.0	22.1	23.2	24.3
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7	650	90	19.9	21.1	22.2	23.4	24.6	25.7
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	700	60	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8	700	65	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9	700	70	16.7	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1	700	75	17.9	18.9	20.0	21.0	22.1	23.1
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2	700	80	19.0	20.2	21.3	22.4	23.5	24.6

倒伏危険域
 I 倒伏度2を超える確率5~20%
 II 倒伏度2を超える確率20~50%
 III 倒伏度2を超える確率50%以上



※ 倒伏診断指標は、「草丈×m²あたり茎数×葉緑素計値÷100,000」により算出。

2) 水管理 **幼穂の発育には水の吸収が不可欠**

- ✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう。特に、減数分裂期～出穂期前後は水の吸収量が最も多い時期となります。この時期に水分が不足した場合、幼穂の発育や開花受精が妨げられる恐れがあります。そのため、低温時を除いて十分に酸素と水を供給しましょう。
- ✓ 低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがありますので、深水管理としましょう。

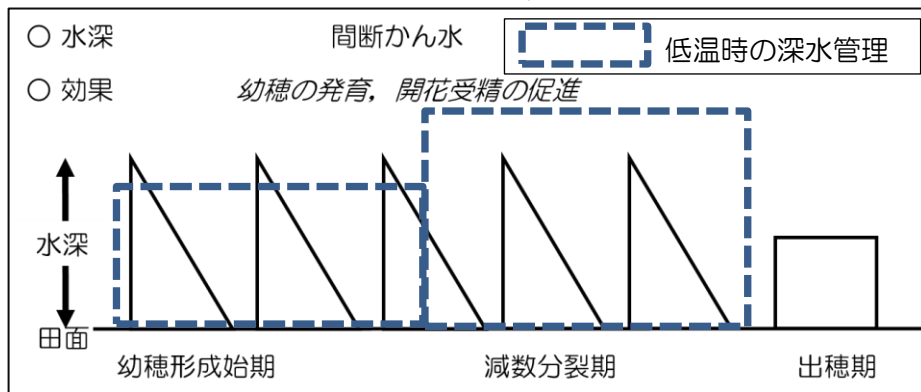


図2 今後の水管理

3) 病害虫防除 **出穂予想に基づいて適期に実施**

- ✓ 宮城県病害虫防除所の巡回調査では県南部及び県中部でいもち病の発生が確認され、防除情報(第2号)が出されています。ほ場を入念に見回り早期発見・早期防除に努めましょう。
- ✓ 紋枯病は、前年に多発したほ場では防除を徹底しましょう。
- ✓ 稲こうじ病は、窒素過多で発生が助長されるので追肥の際は注意しましょう。
- ✓ 宮城県病害虫防除所の巡回調査では、斑点米カメムシ類は平年よりやや少ない発生となっていますが、県北部の出穂したイネ科植物のある草地ではアカスジカスミカメの成虫が多く確認されています。多発の原因となるイヌホタルイやノビエが残草したほ場では、1回目の殺虫剤散布を出穂始期～穂ぞろい期に早めましょう。

表4 主な病害虫の防除方法、防除時期の目安

病害虫	防除方法	防除時期の目安	30日前	20日前	15日前	10日前	5日前	出穂期	穂ぞろい期	穂ぞろい期 10日後	
いもち病	葉いもち	茎葉散布剤 発生が確認されたら直ちに散布	防除時期								
	穂いもち	水面施用剤 出穂30～5日前まで	防除時期								
紋枯病	茎葉散布剤	穂ばらみ期～出穂期			防除時期						
	水面施用剤	穂ばらみ期			防除時期						
稲こうじ病	水面施用剤	出穂20～10日前まで		防除時期							
斑点米カメムシ類	畦畔の草刈り	出穂期10日前まで	草刈り時期								
	殺虫剤×2	穂ぞろい期とその7～10日後							1回目	2回目	

東北地方 1 か月予報
(7月8日から8月7日までの天候見通し)

仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>
期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	20	70
【降水量】	東北地方	20	40	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	10	20	70
3～4週目	東北地方	30	30	40

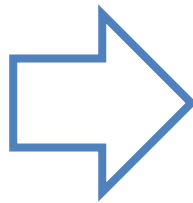
◆◆◆◆◆◆◆◆**農薬危害防止運動(6月1日～8月31日)**◆◆◆◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

運動のテーマ 「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

乾田直播情報

乾田直播栽培の生育調査をしました。草丈は49cm、莖数は631本/m²、葉数は9.4枚、葉色は36.5でした。6月上旬以降の高温により、順調に生育が進んでいます。



6/29の生育状況

7/11の生育状況